

カトリック調布教会 月刊 ● シャローム

2017年9月号

No.217

SHALOM

2017年8月27日発行

たいせつなのは、どれだけたくさんのごことや
偉大なことをしたかではなく、
どれだけ心をこめたかです。

コルカタのマザー・テレサ

「マザー・テレサの愛のことば」より
女子パウロ会



自由投稿

何も出来ないのではない

フランシスコ・ザビエル 野田哲也

日本に住んでいる私たちからしてみれば、想像がまったく付かないことであろう。インドでは年間8万人の子供が行方不明になる。人身売買、臓器売買、またインドには非常に多数の言語（22言語）があるために容易に迷子になってしまうケースも有り得てしまう。

私が今回コルカタ滞在時に関わったケースにメンタル(精神障害)な母親と娘のケースがあった。私たちはそのメンタルな母親をマザー・テレサの施設に、娘をアイルランドのNGO ホープのフリースクールに行かせようとしていた。娘は6・7歳ぐらいであるが、すでにタバコもシンナーも吸っていた、このままではいずれ誰かにレイプされるか、さらわれるかのどちらかであることは容易に想像が出来た。母親は普通の会話は出来ず、たとえ食べ物を渡そうとしたとしても、インド人とは容姿の違うヨーロッパ人のボランティアの姿を見ると逃げ出してしまうことも度々あった。

アイリッシュのジョンが帰国前の最期の日にはホープの車を呼び、すべてを整えて二人を施設に運ぼうとした。その朝、ジョンは駅の構内で寝ている二人に私から食べ物を渡して欲しいと言った。そうした関わりから、その後のことがうまく行くことを願ったのことだった。アジア人であり、ベンガル語を話す私から母親はいつも逃げることはしなかったからでもある。

二人は人が激しく行きかうチケットの売り場のところでズタ袋を敷き、母親が娘を守るように丸くなり、毛布に包まれて眠っていた。私はそれを見た瞬間、どうして母と娘を別けることが出来ようと思った。その権利など誰も持ちあわせない。この母は娘を愛している、この娘は母を愛している。私たちがしようとしていることがほんとうに正しいのか、どうなのか、分からなくなった。

私は食べ物を手にしゃがんで母親を優しく起こすと、目をこすりながら起きて、食べ物は受け取ってくれた。その間、娘は何の心配もしていないように安心してずっと寝ていた。私には何が正しい答えなのかを見い出せなかった。その激しい葛藤の渦のなかから上がって来た唯一の答えは、すべてを神さまに委ねることだった。ジョンがこれから行うことがうまく行けば、それは神さまがそうしたことと思ひ、そうでなければ、それも神さまがそうしたことと。私にはもう祈ることしか出来なくなっていた。

正午近くになり、疲れ切ったジョンがホープの車に乗って、私たちが集まる駅の傍にある治療所（マザーの修道会のもの）に来た。ホープのインド人の職員とジョンの二人で母親と娘を連れて行こうとしたが、母親は暴れて逃げて行ってしまったとのことだった。それを聞き、私は心のどこかでホッとしていた。もちろん、娘の将来のことを考えれば、激しい苦悩を感じずには居られなかった、そのことを忘れていた訳では決していないが、神さまは母親と娘を離れ離れにすることを望まなかったこと、そのことの方が私の願いに少しだけ近かったからかも知れない。不条理な現状を目の当たりにするたび、私はマザーが同じようなことを何度も味わったであろう、苦悩を汗と

疲れともに肌身で感じ、そこに生身のマザーを感じた。そのことで私は苦悩だけに縛られることなく愛を抱き寄せられた。

私たちが関わっていたもう一人のメンタルな女性は、治療所に2歳ぐらいの子供を抱いて良く来ていた。彼女はただひたすら独り言を話し続け、疲れたらボロ小屋のような家に帰って行った。彼女はマザーの施設に行くことを望まなかった。彼女には旦那がおらず、信じられない、信じたくはないが、すでに二人の子供をさらわれていた。今彼女が抱えている子供もいつかまた誰かにさらわれるだろう。そして、彼女はまた誰かにレイプされ妊娠すると言うことを繰り返すのだろうと。

ボランティアのなかには、「もう何も出来ることはない」と呟くものもいた。私は重苦しい雰囲気にもまれていた、そのなかで言った。「愛を与えることを諦めてはならない。マザーは言っていた。「出来ないのではない。出来ることが違うだけ」だと。私たちにまだ出来ることがある。その親子に毎日微笑み、挨拶をし、優しい態度で私たちの心と食べ物を与えること、関わり続けること、いつも心のうちに彼女らのことを思うこと、絶えず彼女らのことを祈ること、何も出来ないと諦めてはいけない。彼女らとの関係のなかで神さまのために美しいことを見出し続ける喜びを持つことが、私たちに出来るのだから」

私の守護聖人であるフランシスコ・ザビエルは言った。「涙しか、神さまに捧げるものがない時がある」 例えそれが待っていたとしても、まだ来ぬ未来に私たちは生きているのではなく、今ここに生き、今ここで出来ることを丁寧に愛情を込め一つひとつしていくことに意味があることを如何なる時も忘れてはならなかった。そして何よりもマザーが見守ってくれていることを感じていた。





修道院の窓から

第4回 汚れなきマリア修道会

汚れなきマリア修道会のマリアンハウス修道院とマリアニスト宣教センターは、佐須町の閑静な住宅地の一角にあり、門から修道院の入り口まで歩きますと、まるで軽井沢で散策しているような錯覚にとられるほど。院内は木々に覆われ、鳥のさえずりも聞こえてきます。この敷地の中に、修道院とマリアニスト宣教センター、そして、マリアの園幼稚園、晃華学園小・中・高校が併設されています。

今回は、墨田管区長および、マリアニスト宣教センターのSr.小林からお話を伺いました。

フランス革命の混乱期に、スペインのサラサゴに亡命していたシャミナード神父は、ピラール（柱）聖母聖堂の聖母像の前で、祖国フランスのキリストへの信仰復帰を願って黙想をしていた時に、信仰復帰の鍵は、「マリア」であることを確信。1800年に祖国に戻ると、早速、イエスのように、「マリアの子」として人々を導き始め、1817年に苦勞の末、マリア会を創設したのでした。

シャミナード神父は、「マリアの子」として生きるグループに、まず、青年たちに救いの協力者としてのマリアの役割とその精神を教え込みました。その後、信徒として社会生活を営みながら、創立者から受けた賜物を生きる「信徒マリアニスト共同体」ができ、更に、奉獻された在俗の身分として家庭生活、職業生活を使徒職として送る「マリアンス・マリアル」ができました。やがて、このメンバーの中から、修道生活を希望するものが現れ、1816年アデル（2017年5月4日ローマ教皇庁により列福宣言）を創立者とする、女子修道院、「汚れなきマリア修道会」が、1817年にシャミナード神父を創立者とする「マリア会」が誕生しました。この4つの会は、マリアニストファミリーと呼ばれ、シャミナード神父の理想とする共同体となりました。

さて、日本における活動は、1949年に、汚れなきマリア修道会スペイン管区から2人のシスターが来日、「時代と場所、そこに居る人々のために働く」というマリア会の使命をもって、当時一番必要だった教育のため、神代村界隈の子供たちを預かる幼稚園を創設。その後、小学校、中学・高校を開校、晃華学園として現在に至っています。

現在、調布修道院には、18人ほどが共同体として生活しています。最近では、ベトナムから志願者、修練者を受け入れ、今年の9月にはベトナムに共同体を設立する予定だそうです。

一日の修道院の生活を伺いました。

5:50 朝の祈り

ミサの後、祈禱する人、出かける人に分かれる。

7:10 朝食

その後は、原則として、共同体としての食事と祈り以外は、それぞれの活動を行う。

3:00 3時の祈り

6:00 夕の祈り

6:40 夕食

夕食の後、分かち合い、祈りなど、就寝はそれぞれ。

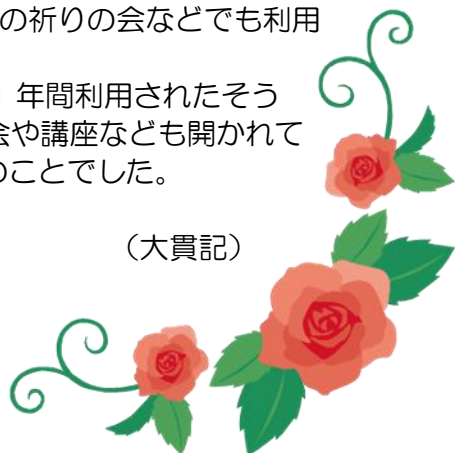


シスターたちは比較的自由に、それぞれの活動を精力的にこなしながら、マリアニストとしての生活を送っています。

また、旧マリアンハウスをリフォームして、マリアニスト宣教センターを開設。私たちが案内していただきましたが、正に、祈るためにあるというような施設で、宿泊することができ、グループでの黙想会や、一日の祈りの会などでも利用料のみで借りられるそうです。

東京カルメル会女子修道院が、建て替えの際に1年間利用されたそうで、「祈りに満ち溢れています」とSr.小林。黙想会や講座なども開かれており、心惹かれる方は、お問い合わせくださいとのことでした。

(大貫記)





☆長崎のキリシタン・シリーズ（3）

平戸のキリシタン

平戸にキリスト教が、伝えられたのは聖フランシスコ・ザビエルの1550年平戸滞在の時からで、他の宣教師たちの働きもあって全土に急速に広まった。キリスト教禁止令後は、島の西海岸にある下中野、白石、春日、高越え、獅子、根獅子、堤の各集落で『隠れキリシタン』として殉教と迫害を繰り返しながらその信仰を守り続けた。1863年に来日したプチジャン師は1864年に完成させ、1865年に祝別式を行った。その1か月後の3月17日に浦上の潜伏信徒が大浦天主堂を訪れ、信仰を告白した。信徒発見の後各地で次々と信仰を表明していったが、1867年に浦上4番崩れが起こり、浦上の迫害により取り締まりが強化され、五島、外海、その他の地区にも迫害が拡大していった。江戸幕府から明治政府へと浦上キリシタン問題は引き継がれ、明治政府はキリシタン禁令の高札を掲げて禁制を継続し、いっそう厳しく取り締まった。浦上の信徒は西日本の各藩に流配され、厳しい迫害生活が続いた。そして、大村、五島、その他各地でも迫害が起こった。明治政府は諸外国からの非難や圧力を受けて、1873年にキリシタン禁制の高札を撤去し、禁教令を解除した。信教の自由によって信徒たちは、自分たちがキリシタンであることを表明したが、周囲の目は厳しく迫害を続け、井戸の水を飲むことを禁じたり物を取り上げたりして、信徒たちがその土地に住むことができないようにした。信徒たちは信仰の自由と安住の地を求めて、船に乗り新天地へと向かった。（迫害の時代から新しい土地への移住は行われていた。）平戸から大村、長崎へ、さらに外海、五島へ。また五島から外海、黒島、平戸へというふう

に。平戸島の数か所に落ち着いた（ほとんどが辺鄙な所）信徒たちはパリ外国宣教会の宣教師や伝道師たちの助けによって、住みついた場所で、貧しい生活を送りながら信仰生活を深め、教会を建設していった。



（Sr.川下和子）

行事報告

◆納涼会

8月20日(日)10時30分のミサのあと、ヨゼフ会主催の納涼会が行われ、楽しいひと時を過ごしました。この準備のため会員のみなさんは、前日仕込み、当日9時集合。バーベキューの準備や、焼きそばの準備をしました。納涼会が始まると、おいしいビールのおかげでみな和気あいあいとおしゃべり。あっという間にお開きの時間になり、また来年を楽しみにと閉会しました。準備をしてくださった皆さんありがとうございました。



◆野川灯籠流し

8月17日午後6時30分より、第16回野川灯籠流しが大勢の参加のもと、しめやかに行われました。
亡くなられた方々を追悼し、東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨災害等に思いを寄せ、環境を守り、世界平和への意識を高めるためにと、調布市内の宗教に関わる団体の、それぞれの祈りの中で千基に及ぶ灯籠が、野川に流されました。
ゆったりと、淡い光を川面に写しながら流れていく光景は、幻想的で心が静まり、川岸で見守る参加者の方々も、自然に祈りの中に誘われているようでした。
調布市仏教会、調布市神職会、立正佼成会、カトリック調布教会と祈りの形は違いますが、その場にいるすべての人が心を一つにできた瞬間でした。
調布教会からは、ソーリヒ神父様、サレジアンシスターズ4人、聖歌隊20人が参加し、「いつくしみ深き」など3曲を歌いましたが、平和に向けての希望につながる“集い”に参加できた喜びがありました。

(聖歌隊)



お知らせ



● 調布教会 50周年の日、ミサの時間について

ミサの時間が変更になっていますので、お気を付けください！

◇ 2017年10月1日(日)

ミサ時間は、**8時**と**11時**の2回になります。

- ・ 50周年記念ミサ 11時(主日ミサ) 岡田大司教司式ミサ
- ・ 祝賀会 13時(ドン・ボスコホール)

● バザー部会からのお知らせ

今年もバザーを下記の日程で開催いたします。

バザーについては、今後も定期的にシャロームで、お知らせいたします。

皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

バザー開催概要

テーマ： 寄り添い続ける

— 被災地復興支援・地域支援 —

開催日時：2017/10/29(日) 11:00~14:00(雨天決行・屋内)

開催場所：カトリック調布教会 内容：和太鼓他、各会出店による物品販売

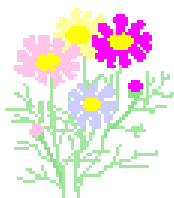
9月よりバザー募金を開始しますのでご協力よろしくお願い致します。

なお、バザー券は諸事情により2015年から販売を取りやめることとなりました。

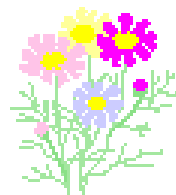
「被災地復興支援」・「地域支援」のための「募金」にご協力頂けます様よろしくお願い致します。

マリア会の各地区の役割分担について

今年のバザーの各地区役割分担は以下となっております



1 地区	手芸
2・3 地区	食堂
4・5 地区	寄贈品
6・7 地区	リサイクル
8 地区	環境整備



● YOUCAT で学ぶ カテキズム講座

10月も講座を開けることになりました。ぜひご参加ください！

日時：10月14日(土) 11:00 ~ 12:00

場所：カトリック調布教会 信徒会館 チマッティホール

学ぶ箇所：3(P.24) 世界に亀裂がある理由 から

2017年 9月 行事予定

日	曜日	ミサ時間	ミサ時間			予 定	時間	部屋
			8:00	9:15	10:30			
9月1日	金					初金ミサ	10:30	小聖堂
2	土					掃除当番 3地区 ミサ	10:00 19:00	小聖堂
3	日	年間第22主日	○	なし	○	ミサ 教会委員会	9:15	教会聖堂 マリア会室
4	月							
5	火	マザーテレサ (コルカタ)				「ラウダート・シ」を読む(Sr.嶋崎) 手芸の会	10:00 10:00	ヨゼフ会室 マリア会室
6	水					入門講座 (Sr. 嶋崎)	10:00	ヨゼフ会室
7	木					Lectio Divina (Sr. 秋山)	10:00	ノートルダム修道院
8	金	聖マリアの誕生						
9	土					掃除当番 4地区 English Bible Class(Mr.ウィリアムス) ミサ	10:00 16:00 19:00	マリア会室 小聖堂
10	日	年間第23主日	○	なし	○	ミサ マリア会定例会 English Mass	9:00 14:30	教会聖堂 マリア会室 教会聖堂
11	月							
12	火	マリアのみ名				Lectio Divina (Sr. 嶋崎) 手芸の会	10:00 10:00	ヨゼフ会室 マリア会室
13	水					入門講座 (Sr. 嶋崎) 通読しながら聖書を味わう会 (Sr.秋山)	10:00 10:00	ヨゼフ会室 マリア会室
14	木	十字架称賛						
15	金	悲しみの聖母				アンナとヨアキムの会	10:00	マリア会室
16	土					掃除当番 5地区 ミサ	10:00 19:00	小聖堂
17	日	年間第24主日	○	○	○	ミサ 敬老のお祝い	ミサ後	教会聖堂 チャペルホール
18	月	敬老の日						
19	火					「ラウダート・シ」を読む(Sr.嶋崎) 手芸の会	10:00 10:00	ヨゼフ会室 マリア会室
20	水					入門講座 (Sr. 嶋崎)	10:00	ヨゼフ会室
21	木	聖マタイ使徒福音記者				Lectio Divina (Sr. 秋山)	10:00	ノートルダム修道院
22	金							
23	土	秋分の日				掃除当番 6地区 ミサ	19:00	小聖堂
24	日	年間第25主日	○	○	○	ミサ		教会聖堂
25	月							
26	火					Lectio Divina (Sr. 嶋崎) 手芸の会	10:00 10:00	ヨゼフ会室 マリア会室
27	水	聖ビンセンチオ・ ア・パウロ司祭				入門講座 (Sr. 嶋崎) 通読しながら聖書を味わう会 (Sr.秋山)	10:00 10:00	ヨゼフ会室 マリア会室
28	木	聖トマス西と15殉教者						
29	金	聖ミカエル・聖ガブリエ ル・聖ラファエル						
30	土					掃除当番 7地区 English Bible Class(Mr.ウィリアムス) ミサ	10:00 16:00 19:00	マリア会室 小聖堂

主任司祭による入門講座は、適宜、個人的に行っています。